

## 第四十一回卒業式 式辞

早春の輝きが増すこの佳き日に、東京都立小川高等学校第四十一回卒業式を挙行するにあたり、多数のご来賓の皆様及び保護者の方々の御臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

ただ今、呼名され卒業許可されました卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。高校生活3年間さまざまな経験を通して成長した皆さんの卒業を心から祝福します。保護者の皆様にもお祝い申し上げます。十八年間本当にお疲れさまでした。

卒業生の皆さんは、この三年間を振り返ってどう考えるでしょうか。通常の入学式が挙行できなかったことに始まり、さまざまな行事が中止や縮小となり、皆さんの日常の「あたりまえ」が崩され、私もこの上なく心苦しい日々が続きました。しかし、特に今年度になって、鎌倉遠足や体育祭、文化祭などの行事、部活動や進路活動に前向きに取り組む皆さんの姿を見ることができ、少し安堵しました。

昨年的高校野球夏の甲子園大会で、仙台育英高校が初優勝しました。その須江監督の優勝後のインタビューの話が話題となりました。その一部をご紹介します。

『青春って、すごく密なので。でも、そういうことは全部ダメ、ダメだと言われて。活動していても、じいかがでストップがかかってしまうような苦しい中で。でも本当にあきらめなくてやってくれた。全国の高校生のみんなが本当にやってくれた。目標があったから、あきらめなくて暗い中でも走っていった。本当にすべての高校生の努力のたまもの。ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います。』

冒頭の『青春って、すごく密なので。』は、昨年の流行語大賞の特別賞にも輝いたので、おぼえている人も多いでしょう。選考委員の歌人、俵万智さんは「忌み嫌われていた『密』を青春を大肯定する文脈で使った。震えるような言葉の力を感じた。」と評していましたが、私も同じく感激したものです。

コロナ禍で密を避け、人との関りが減りました。それでもいい、という人中にはいるかもしれません。でも、やはり青春真っただ

中の皆さんのような人たちには『密』が必要なんです。密とは他の人との「コミュニケーション」そのもの、生活そのものであること、改めて気づかされたこの三年間だったのではないのでしょうか。これから徐々に元の生活に戻る中で、一つひとつの関わりを大切にしてください。

『みつ』といえば、作家の吉本ばななさんが最近の著書の中で『蜜』という言葉を使ってこんなことを述べています。

『毎日が蜜だ。生きているだけで丸儲けだ。今日が来るのが嬉しい、目を覚ませるのが嬉しい。だいたいの人がみな愛おしい』  
つまり、結局は幸せというものは、生活の中にある、ご飯食べた、り、友だちと話したり、勉強したり、そのこと自体が幸せなことだ、ということです。世界に目を向けると、理不尽な戦争が起きている。ここ数年間の「コロナ禍」も大変でした。しかし、そうした世の中や経験の中で、苦しいことや悲しいことに直面したからこそ、目の前にある日常が愛おしく感じるのだと思います。そうした感情をもてた卒業生の皆さんは、これからの人生を切り抜ける力を身に付けたと胸を張れるのではないかと思います。

これから大人となり社会で活躍する皆さんが、今日のお話を少しでも心に留めて思い出してくれたら本望です。

卒業式は英語で graduation ceremony ㄋㄨㄣㄊㄨㄚㄗㄩㄝㄑㄩㄝㄑㄩㄝㄑㄩㄝ commencement ceremony ㄨㄚㄑㄩㄝㄑㄩㄝㄑㄩㄝㄑㄩㄝ commencement は「始まり、開始」という意味があります。卒業生の皆さん、また新たな生活が始まります。今日卒業式で小川高校から巣立った後も、また前向きに新たな生活を開始し、これまでの三年間以上に、日々の生活を大切にしてい、他人を思いやる気持ちをもって、人間的に大きく羽ばたくことを心から願って式辞といたします。

令和五年三月八日

東京都立小川高等学校長 勝嶋 秀行